

平成18年ホッケ根室海峡・道東・日高・胆振の資源評価

責任担当水研：北海道区水産研究所（森田晶子）

参画機関：北海道立釧路水産試験場

要 約

根室海峡・道東・日高・胆振海域におけるホッケの漁獲量は1989年に14千トン記録した後、90年代は5～10千トンで推移しながら増加し、1999年に12千トンに達した。近年の漁獲量は10～12千トンで推移している。当該海域におけるホッケは種々の漁業によって漁獲され、努力量の算定が困難であるために、CPUEなど資源量水準となりうる指標値を得ることが出来ない。そこで漁獲量の推移から、資源水準は中位、資源動向は横ばいと判断した。平成18年ABC算定のための基本規則2-2)-(1)に従い、 $ABClimit$ を過去5年間の平均漁獲量 $\times 1.0 = 10$ 千トン、また $ABCtarget = ABClimit \times 1.0 = 10$ 千トンとした。

	2007年ABC	資源管理基準	F値	漁獲割合
$ABClimit$	10千トン ^{*1}	1.0 Cave5-yr	-	-
$ABCtarget$	10千トン ^{*1}	1.0・1.0 Cave5-yr	-	-

年	資源量	漁獲量	F 値	漁獲割合
2004	-	12 千トン	-	-
2005	-	10 千トン	-	-
2006	-	-	-	-

*1 算定されたABCおよび2003～2005年の漁獲量には、「安全操業」による漁獲を含まない。理由については補足資料を参照。

水準：中位 動向：横ばい

1. まえがき

根室海峡・道東・日高・胆振海域に分布するホッケは、北海道太平洋岸における沿岸および沖合底びき網漁業の主要漁獲対象資源の一つである。

2. 生態

(1) 分布・回遊

漁獲対象魚は、胆振、日高、道東、根室海峡、北方四島周辺水域の水深200m以浅に分布している（図1，ホッケ研究グループ1983）。

(2) 年齢・成長

当該海域の一つである根室海峡におけるホッケの平均的な成長は、以下の成長式によっ

て示される（八吹 1994を改変）：

$$L_t = 436[1 - \exp\{-0.320(t + 1.714)\}]$$

$$W = 0.000008417L^{3.111}$$

L:体長(mm)、W:体重(g)、t:年齢

3歳以降雌雄で成長に差が見られるが、ここでは雌雄分けないものを示した。この式を用いて満年齢における計算体長と計算体重を求め、図2に示した（満1歳の体長は漁獲物標本の体長から推定）。年齢の起算日については、生まれた翌年の1月1日を便宜的に誕生日とし、その後毎年1月1日に加齢させる。寿命は10年を越える。成熟までの成長は比較的早いですが、成熟後（3歳以降）の成長は頭打ちとなり、年齢による体長の違いを検出することが困難となる。日本海側に生息するホッケに比べ成長が良い。

(3) 成熟・産卵

産卵場は日高沖や根室海峡が知られているが、その規模は小さい。知床半島先端水域における産卵期は10月中～11月中旬である。0歳魚は表層に分布するが、秋以降に浅海域に着底し、漁獲の対象となる。1歳の終わりに一部（3割前後）成熟するものがあり、2歳の終わりには大部分が成熟する。成熟後のホッケは大きな移動回遊を行わず、産卵場付近を生活領域とする。

(4) 被捕食関係

仔魚期には主にカイアシ類を、未成魚期にはヨコエビ類を多く捕食する。岩礁周辺に定着するようになると、魚類、魚卵、イカ類、エビ類、ヨコエビ類、オキアミ類などさまざまな種類の動物を食べる（夏目 2003）。

3. 漁業の状況

(1) 漁業の概要

当該資源を利用する漁業としては、刺し網、定置網、沖合底びき網（以下沖底とする）などが挙げられ、総漁獲量の7～9割は沿岸漁業による（表1）。本系群における漁業種は海域により異なり、襟裳以西および道東海域では沖底および刺網類、根室海峡海域では刺網および定置網による漁獲が主体となっている。海域別漁獲量は根室海峡で最も多く、刺網類などの沿岸漁業によって海域全体の5～7割を占めている。

主漁期は春の索餌期（刺し網主体、0～1歳）と秋の産卵期（刺し網主体、1～2歳）である。いずれも2歳魚以下の未成魚が主体であるが、各年の漁獲物の年齢組成および年齢別漁獲尾数の詳細については不明である。

(2) 漁獲量の推移

当該資源の漁獲量は、1989年に14千トンに達したのち減少し、1990年代は5～9千トンで推移した（表1、図3）。1999年に再び12千トンを超えたのち、近年は10千トン付近で推移している。2005年の漁獲量は、前年比14%減の10千トンであった。

海域別漁獲量では、特に根室海峡での漁獲量が多く、刺網や定置網による沿岸漁業によって総漁獲量の5割以上が漁獲されている。根室海峡における漁獲量は、90年以降95年まで低下傾向を示したが、ここ数年は増加傾向を示している（表1，図4）。一方、襟裳以西や道東海域では、沿岸と沖底の漁獲割合は年によって異なるが、合計漁獲量は両海域で2000年までは類似した傾向を示した。2000年以降は、道東海域で漁獲量が高い傾向が続いたが、2004年から2005年にかけて両海域ともに漁獲量は減少した（表1，図4）。北方四島における漁獲量は、2002年に急減したのち回復し、近年は50トン程度で推移している。

(3) 漁獲努力量

前述の通り、本系群を利用する漁業の主体は根室海峡の沿岸漁業であるが、2001年度より出漁隻数などの情報収集を開始した。過去の分について遡って調べることは困難であるが、今後数年が経過した後は、根室海峡のホッケの漁獲についての努力量およびCPUEなどの情報を利用することが期待される。

4. 資源の状態

(1) 資源評価の方法

本海域におけるホッケの漁獲物はそのほとんどが1歳と2歳で、年齢幅が狭く、コホート解析による資源量の推定には適切でないと考えられる。また、漁獲量の大半は根室海峡の刺網漁業によるものであるが、この漁業種については漁獲量以外の資源量の指標（CPUEなど）を得ることが困難である。さらにこの漁場はロシア水域と接しており、ロシア側におけるホッケの分布に関する情報が入手できないため、正確な資源評価は困難である。これらのことを踏まえて、近年の総漁獲量の変化から資源動向を判断した^{*2}。この際「安全操業（正式名称：北方四島操業枠組み協定）」による漁獲量は計算から除外した。^{*1}

(2) 資源の水準・動向

当該海域における過去20年間（1986～2005年）の漁獲量の推移から資源水準を、過去5年間（2001～2005年）の漁獲量の推移から資源動向を判断した。過去20年間の漁獲量の平均値を50とし、35未満を低位水準、35以上65未満を中位水準、65以上を高位水準と設定した。2005年の漁獲量は10,072トンで54となり、資源水準は中位と判断した。（表1，図5）。また、過去5年間の漁獲量では有意な増加傾向が認められなかったため（ $r = 0.53$, $p = 0.36$ ）、資源動向は横ばいと判断した（表1，図5）。

5. 資源管理の方策

漁獲量の変動が資源動向を反映すると仮定した場合、2000年以降、資源豊度は安定した水準で推移しているものと判断された。今後、現在と同程度の漁獲圧を維持する限り、資源に対して急激に影響を与えるとは考え難い。よって、現行の漁獲努力量を大きく上回ることがないように調整することとする。

6. 2007年ABCの算定

(1) 資源評価のまとめ

根室海峡・道東・日高・胆振海域に分布するホッケの資源水準は中位、動向は横ばいである。

(2) ABCの算定

当該海域のホッケにおいて資源評価に利用できる情報は漁獲量のみである。そこで、平成18年ABC算定のための基本規則 2-2)-(1)にしたがい、以下のようにABCを算定した：

$$\begin{aligned}\text{ABClimit} &= \text{過去5年間（2001～2005年）の平均漁獲量（安全操業分を除く）} \times 1.0 \\ &= 10 \text{千トン}\end{aligned}$$

また、ここ数年にわたりABClimit = 10千トンにほぼ等しい漁獲を続けながらも漁獲量に減少傾向が見られず、この程度の漁獲量であれば資源に悪影響を与えているとは考えにくいことから、ABCtargetにおいて積算する安全率 α については、標準値の0.8の代わりに1.0を与え、

$$\text{ABCtarget} = \text{ABClimit} \times 1.0 = 10 \text{千トン}$$

とした。

	2007年ABC	資源管理基準	F 値	漁獲割合
ABClimit	10千トン	1.0 Cave5-yr	-	-
ABCtarget	10千トン	1.0・1.0 Cave5-yr	-	-

(3) ABCの再評価

評価対象年 (当初)	管理基準	資源量	ABClimit (千トン)	ABCtarget (千トン)	漁獲量 (千トン)
2005年(当初)	1.0 Cave5-yr	-	10	10	-
2005年(2005年再評価)	1.0 Cave5-yr	-	10	10	-
2005年(2006年再評価)	1.0 Cave5-yr	-	10	10	10
2006年(当初)	1.0 Cave5-yr	-	10	10	-
2006年(2006年再評価)	1.0 Cave5-yr	-	10	10	-

7. ABC以外の管理方策の提言

ホッケ根室海峡・道東・日高・胆振の漁獲量は、近年10千トン程度で安定的に推移している。当該資源の漁獲量の大部分を占める根室海峡における漁獲量は、ここ数年増加しているものの、海域によって漁獲量の変動は異なった傾向を示しているため、海域別の漁獲量推移に注意する必要がある。

8. 引用文献

ホッケ研究グループ(1983) 北海道周辺海域のホッケの分布、回遊、最近のホッケの調

査研究，北海道立中央水産試験場，余市，44-59.

夏目雅史(2003) ホッケ，漁業生物図鑑 新北のさかなたち（水島敏博，鳥澤雅（監修）），北海道新聞社，196-201.

八吹圭三(1994) ホッケの耳石染色法による年令査定と根室海峡における成長，漁業資源研究会議 北日本底魚部会報，27:39-48.

表1. 根室海峡・道東・日高・胆振海域におけるホッケの海域別漁業種類別漁獲量の推移(単位:トン)

年	海域		襟裳以西		道東		根室海峡		北方四島		合計	
	沿岸	沖底	計	沿岸	沖底	計	沿岸	安全操業※	沖底	除安全操業	含安全操業	沿岸割合(%)
1985	444	43	487	534	107	641	1,663		291	3,082	3,082	86
1986	1,379	218	1,597	1,563	815	2,378	5,425		26	9,426	9,426	89
1987	1,259	254	1,513	659	753	1,412	5,363		116	8,403	8,403	87
1988	1,036	422	1,458	575	226	801	5,058		172	7,489	7,489	89
1989	2,089	679	2,768	632	569	1,201	10,129		138	14,235	14,235	90
1990	2,158	532	2,690	864	918	1,782	7,273		89	11,834	11,834	87
1991	640	652	1,292	704	143	846	3,524		48	5,710	5,710	85
1992	312	177	488	570	151	720	4,011		79	5,299	5,299	92
1993	839	616	1,456	533	712	1,245	5,977		45	8,722	8,722	84
1994	1,150	1,104	2,254	1,073	1,110	2,183	5,478		40	9,954	9,954	77
1995	836	1,396	2,232	968	122	1,090	2,634		48	6,004	6,004	74
1996	694	1,656	2,350	1,723	499	2,222	4,514		32	9,117	9,117	76
1997	968	490	1,458	1,614	404	2,018	4,863		20	8,359	8,359	89
1998	684	978	1,662	1,397	772	2,169	4,642	645	12	8,485	9,130	79
1999	1,484	1,067	2,551	1,965	1,262	3,227	6,162	696	14	11,954	12,650	80
2000	969	1,110	2,079	1,076	858	1,934	6,506	639	11	10,530	11,169	81
2001	1,500	489	1,989	774	439	1,213	5,653	637	68	8,924	9,561	89
2002	1,236	744	1,981	1,062	2,760	3,822	4,750	695	7	10,560	11,255	67
2003	674	581	1,255	1,238	2,587	3,825	4,986	734	44	10,109	10,844	68
2004	951	599	1,551	1,984	1,651	3,635	6,449	711	60	11,695	12,406	80
2005	656	92	748	1,328	466	1,795	7,481	638	49	10,072	10,710	94

襟裳以西（沿岸） 北海道水産現勢（渡島支庁分を除く道南太平洋、2005年は暫定値）
 襟裳以西（沖底） 北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計資料（中海区：襟裳以西）
 +太平洋北区分合底びき網漁業漁場別漁獲統計資料（中海区：襟裳西、2005年は暫定値）
 道東（沿岸）： 北海道水産現勢（道東太平洋、2005年は暫定値）
 道東（沖底）： 北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計資料（中海区：道東）
 +太平洋北区分合底びき網漁業漁場別漁獲統計資料（中海区：道東、2005年は暫定値）
 根室海峡（沿岸） 北海道水産現勢（根室海峡、2005年は暫定値）
 根室海峡（安全操業※）： 羅臼漁協調べ
 北方四島（沖底） 北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計資料（中海区：千島（ロシア））
 +太平洋北区分合底びき網漁業漁場別漁獲統計資料（中海区：千島、2005年は暫定値）

※根室海峡の「安全操業」とは、1998年から北方4島周辺水域内で行われている日本の沿岸漁業。ホッケの場合、根室海峡の国後島側での漁獲。

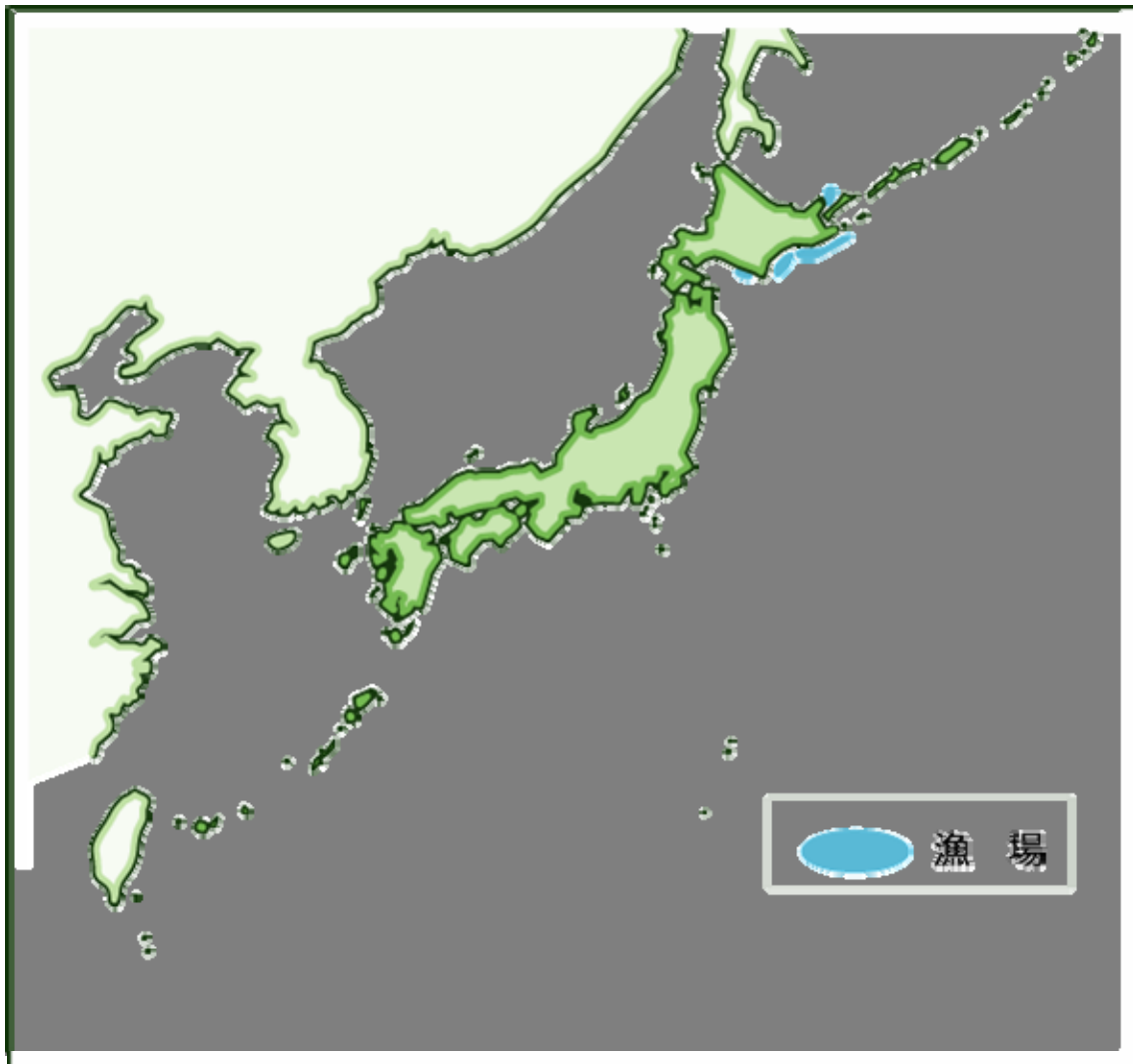


図1. 根室海峡・道東・日高・胆振海域におけるホッケの漁場位置（〔ホッケ研究グループ(1983)〕を改変）

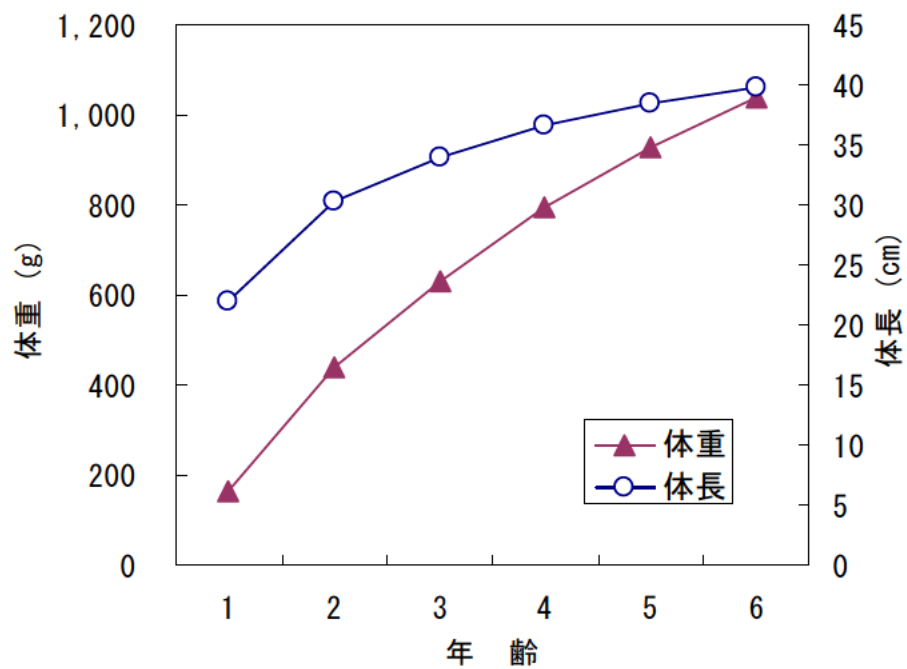


図2. 根室海峡で漁獲されるホッケの年齢と平均体長・体重の関係（八吹1994を改変）

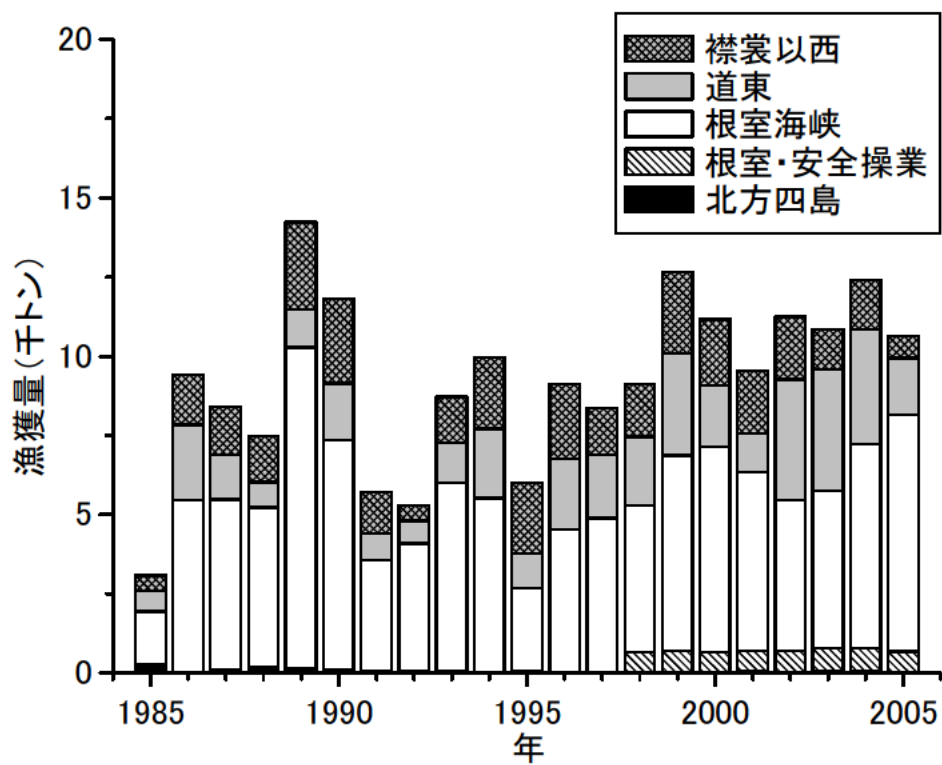


図3. 根室海峡・道東・日高・胆振海域におけるホッケの漁獲量推移

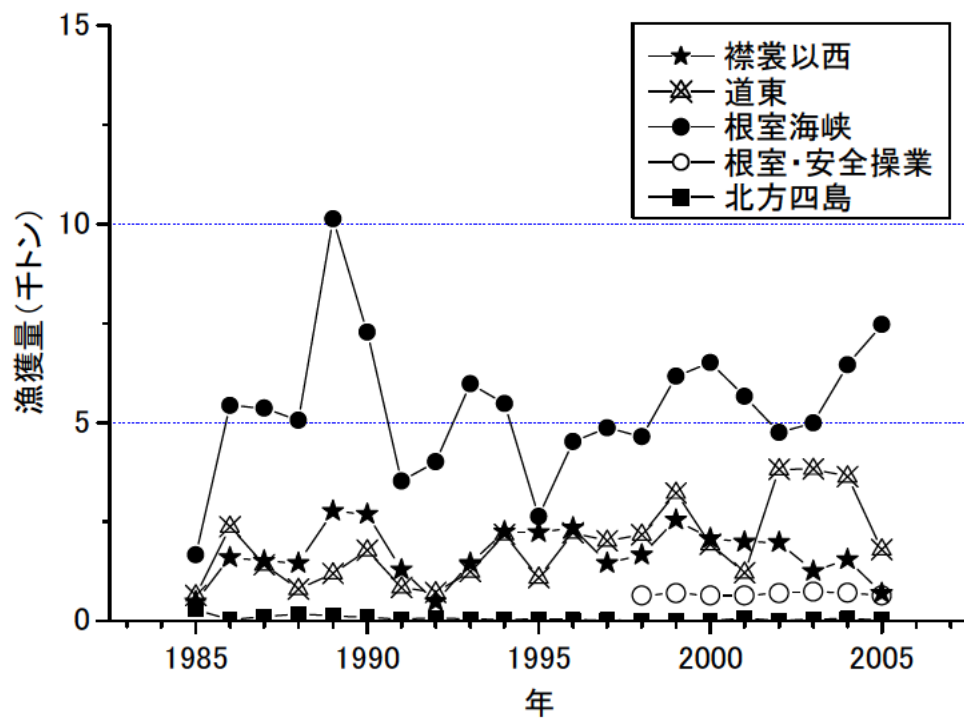


図4. 根室海峡・道東・日高・胆振海域におけるホッケの海域別漁獲量の推移

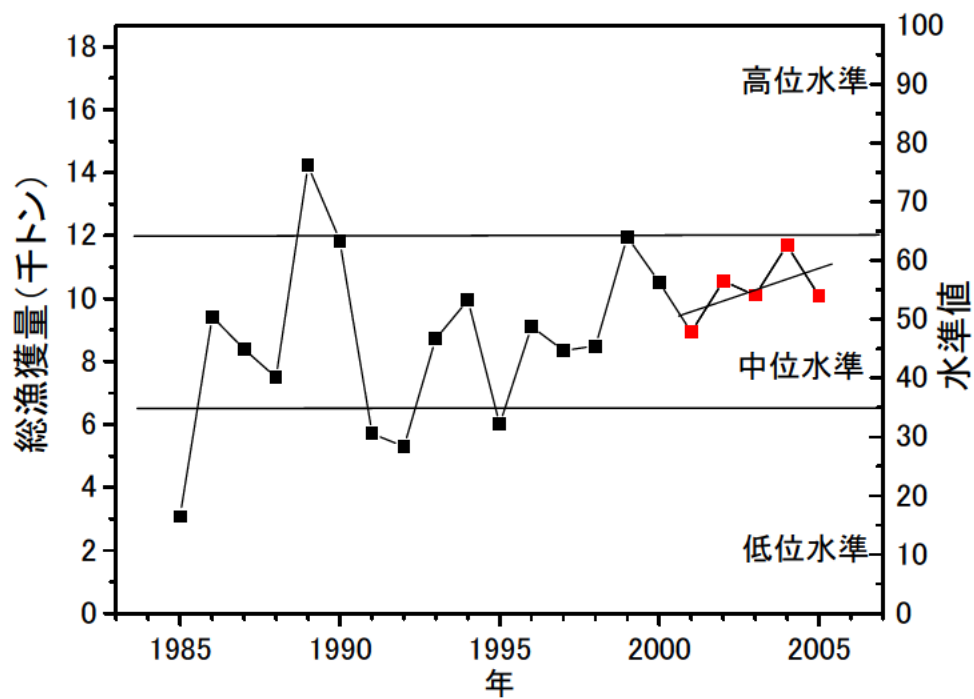


図5. 根室海峡・道東・日高・胆振海域におけるホッケの総漁獲量および資源水準

補足資料

*1 1998年より北方四島操業枠組み協定（通称「安全操業」）が開始されたことにより、根室海峡国後島側海域でもホッケの漁獲が行われるようになった。生物学的には根室海峡知床半島側海域で漁獲されるものと同じと考えられるが、この漁獲枠は別途日ロ間で決定され、かつ政治的な影響を受ける可能性があるため、ABC算定からは除外した。

*2 本評価においては、総漁獲量の大半が根室海峡の沿岸漁業によって占められていることから、太平洋側海域における沖底漁業から得られる努力量やCPUEなどの情報は資源評価に用いなかった。補足資料として、太平洋側海域における沖底漁業の動向を示す（付表、付図1、2）。

漁獲努力量は海域によってその水準に大きな差があるものの、1990年代後半から2001年までは海域ごとにほぼ安定した値を維持してきた。しかし、2002年以降道東海域における漁獲努力量は減少傾向を示す一方で、北方四島海域での漁獲努力量は増加傾向にある。

CPUEは、年による変動は多少あるものの、長期間にわたる増加あるいは減少といった傾向はみられず、1980年代後半以降ほぼ一定の水準であった。2002年 - 2004年にかけて、道東海域では非常に高い値が見られたが（付表、付図2）、2005年には再び以前と同じ水準に戻った。

付表：北海道根拠の沖底漁船による海域別の漁獲努力量とCPUE

漁獲努力量

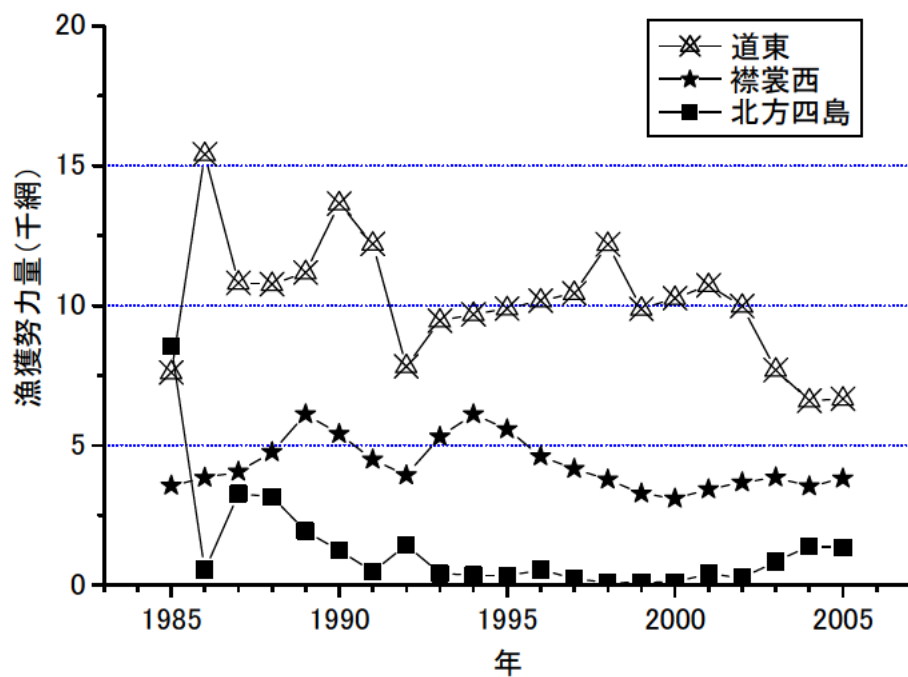
年	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
襟裳西	3,565	3,839	4,061	4,756	6,118	5,410	4,487	3,929	5,315	6,110	5,576
道東	7,608	15,406	10,814	10,756	11,180	13,643	12,198	7,823	9,460	9,687	9,886
北方四島	8,528	546	3,263	3,164	1,927	1,256	491	1,447	425	352	330

年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
襟裳西	4,608	4,159	3,780	3,283	3,101	3,435	3,676	3,853	3,533	3,816
道東	10,167	10,435	12,187	9,882	10,266	10,723	9,983	7,693	6,598	6,667
北方四島	549	242	83	102	110	406	262	842	1,402	1,349

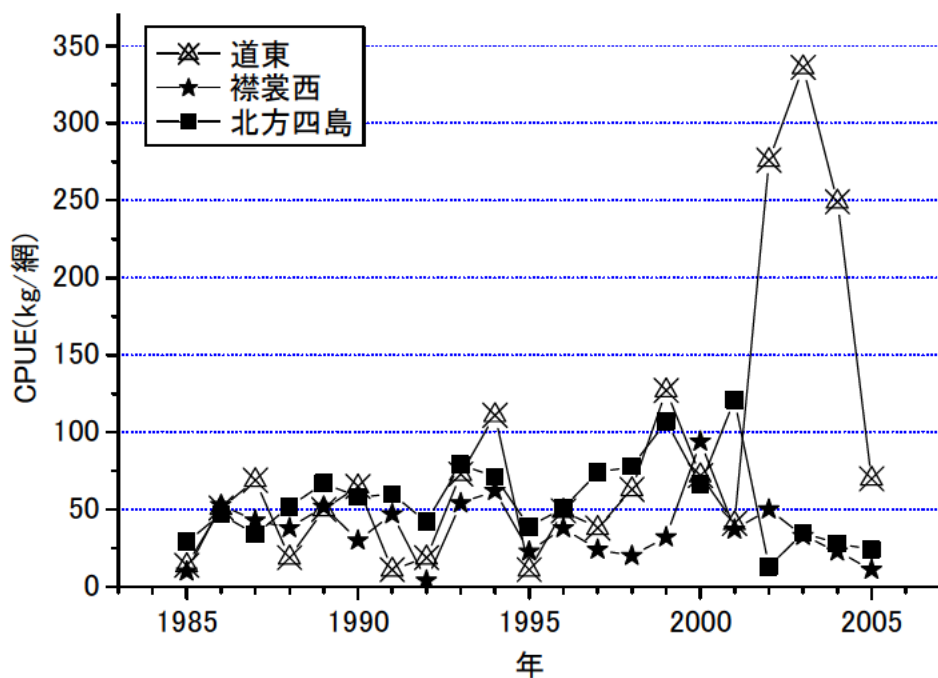
CPUE

年	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
襟裳西	10	53	43	38	52	30	47	4	54	62	23
道東	14	51	69	19	50	65	11	19	73	111	11
北方四島	29	47	34	52	67	58	60	42	79	71	39

年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
襟裳西	38	24	20	32	94	37	50	33	23	11
道東	49	38	63	127	72	41	276	336	249	70
北方四島	51	74	78	107	66	121	13	35	28	24



付図1. 北海道根拠の沖底船によるホッケの海域別漁獲努力量の推移



付図2. 北海道根拠の沖底船によるホッケの海域別CPUEの推移